

## 学会誌「計画行政」執筆要領

### 1. [原稿]

原稿は学会ウェブサイトにあるテンプレート(Word)を利用して作成する。原稿分量は、和文の場合はワープロを使用し、A4版で23字×46行×2段(2116字)とし、英文の場合も、同様のスタイルとする。いずれも題名・アブストラクトを含む。

研究論文のテンプレート(PDFはこちら・Wordはこちら)

研究ノート・資料のテンプレート(PDFはこちら・Wordはこちら)

### 2. [著者の順番]

複数の著者による論文の場合には、論文への貢献度の大きい者から順に著者を列記すること。

### 3. [図表]

原稿分量には図表を含む。図表は原稿に挿入する。図、表それぞれに一連番号をつけ、図1…、表1…のような形で記載する。なお、図表は機関誌掲載時に約86%程度に縮小されることを考慮し、見やすさに注意することとする。

### 4. [英文アブストラクト]

研究論文の場合は、書式見本に従って英文アブストラクトを添付すること。アブストラクトの最後に、英語のキーワード/フレーズを、3～5語/句の範囲で記入する。

### 5. [参考文献]

参考文献を適切に引用し、本研究の位置づけを明確にすること。

参考文の引用は例に倣い、著者の姓、発表年を書く。

例: 山田(1985)は……、鈴木(1986a)によれば……

……が証明されている(山田・鈴木、1985)。

Tanaka et al (1980) は……。

参考文献表は、本文末尾に著者のアルファベット順、年代順に記す。

同一著者の同年代の文献は、引用順に a、b、c……を付して並べる。

例: 鈴木次郎(1986a)「計画と行政」、『計画と行政』17、34～43。

鈴木次郎(1986b)『計画論』学陽書房。

Tanaka, S. et al (1980) Planning Administration, Academic Press, New York.

Tanaka, S. (1981) “Formal theory of planning”, *Mathematical Planning*, 18, 121～138

山田太郎 (1985) 「計画行政に関する研究」、『計画と行政』13、44～50.

山田太郎・鈴木次郎 (1986) 『計画行政学』学陽書房.

(2014年1月1日改訂、2014年1月1日より施行)

(2016年1月1日改訂、2016年1月1日より施行)

(2016年8月4日改訂、2016年9月1日より施行)

(2024年7月30日改訂、2024年8月1日より施行)

(2025年3月31日改訂、2025年4月1日より施行)